2025年10月オープン

Ena City
岐阜県 恵那市

恵那市制20周年記念事業
佐藤一斎生誕250年記念事業

佐藤一斎學びのひろば

～ 施設案内 ～

恵那市

岩村地域自治区運営協議会

NPO法人いわむら一斎塾

館内イメージ（全体）

佐藤一斎と出逢える、対話する施設

～一斎先生と対話し、現代に生きる教えを体感する～

私たちが目指す施設は、佐藤一斎ゆかりの資料を展示し、その一生や業績を単に伝えるだけの施設ではありません。伝えたいのは、今に生きるその「教え」です。江戸から明治に移る激動の時代に、佐藤一斎は何を考え生き抜いたのか、後世に何を伝えようとしたのか。私たちはこの施設で、1133条からなる珠玉の著書『言志四録』を通じて、佐藤一斎に出逢い、その教えを体感します。そして、誰もが自分に合った言葉を見つけ、時には勇気をもらい、時には励まされ、時にはやさしさに包まれることで、現代を生きる光明にすることでしょう。恵那市岩村から全国に向け、多くの人々に求められる施設として、日本に一つしかない施設を目指します。

目的・役割

佐藤一斎學びのひろばは、
○郷土の先人佐藤一斎の教えを、全国の人々に伝えます。
○豊富な資料により、佐藤一斎研究の拠点化を図ります。
○佐藤一斎の教えを通じて、「学ぶ観光」や「人物観光」に応え、全国から人々をお迎えします。
○岩村城跡や岩村城下町と連動した観光誘客に貢献します。
○まちづくり活動の推進や交流関係人口の増加に寄与し、地域活性化に貢献します。

期待される効果

○佐藤一斎の教えの全国ブランド化
○社会見学や企業・行政・教育研修などの受け入れ
○岩村城跡や岩村城下町との連動や、市内回遊による滞在型観光の造成
○全国各地の先人顕彰施設との関係づくりによる自治体間や地域間の連携交流の強化

これらの目的・役割を果たし、期待される効果を実現することで、
持続可能な地域づくりを行うSDGｓの達成に貢献します。

利用案内

先人顕彰拠点施設や図書館分館などの機能を持つ複合施設として整備します。佐藤一斎學びのひろばは、1階西側部分約400㎡を活用し、学びと展示の施設となります。

○入館料（予定）

	個人	団体（20人以上）
一般	500円	400円
18歳以下	無料	無料

○休館日　水曜日（その日が祝日の場合はその直後の平日）
年末年始（12月29日～1月3日）

○開館時間　午前９時～午後５時

○フロア　１階　佐藤一斎學びのひろば、恵那市図書館分館
２階　（仮称）恵那市歴史資料館（次期整備）

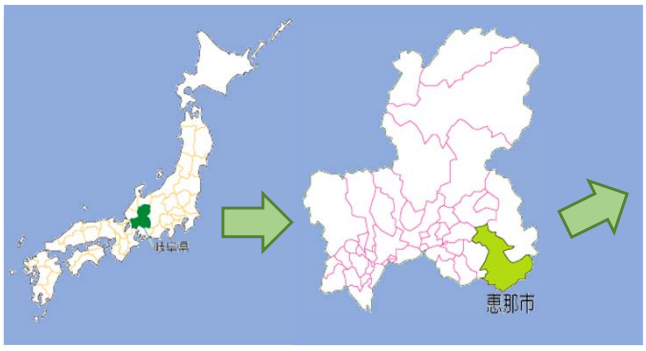
○住所　恵那市岩村町545番地１

○アクセス

▶鉄　道　東京駅→名古屋（約１時間40分）
新大阪駅→名古屋（約50分）
名古屋駅→恵那駅（約70分）
明知鉄道恵那駅→岩村駅（約30分）
岩村駅から徒歩15分

▶自動車　東京(調布IC)→恵那IC（約３時間45分）
吹田IC→小牧JCT→恵那IC（約３時間）
恵那ICから国道257号で20分

▲外観（改修後イメージ）



佐藤一斎の教えが生きるまち岩村

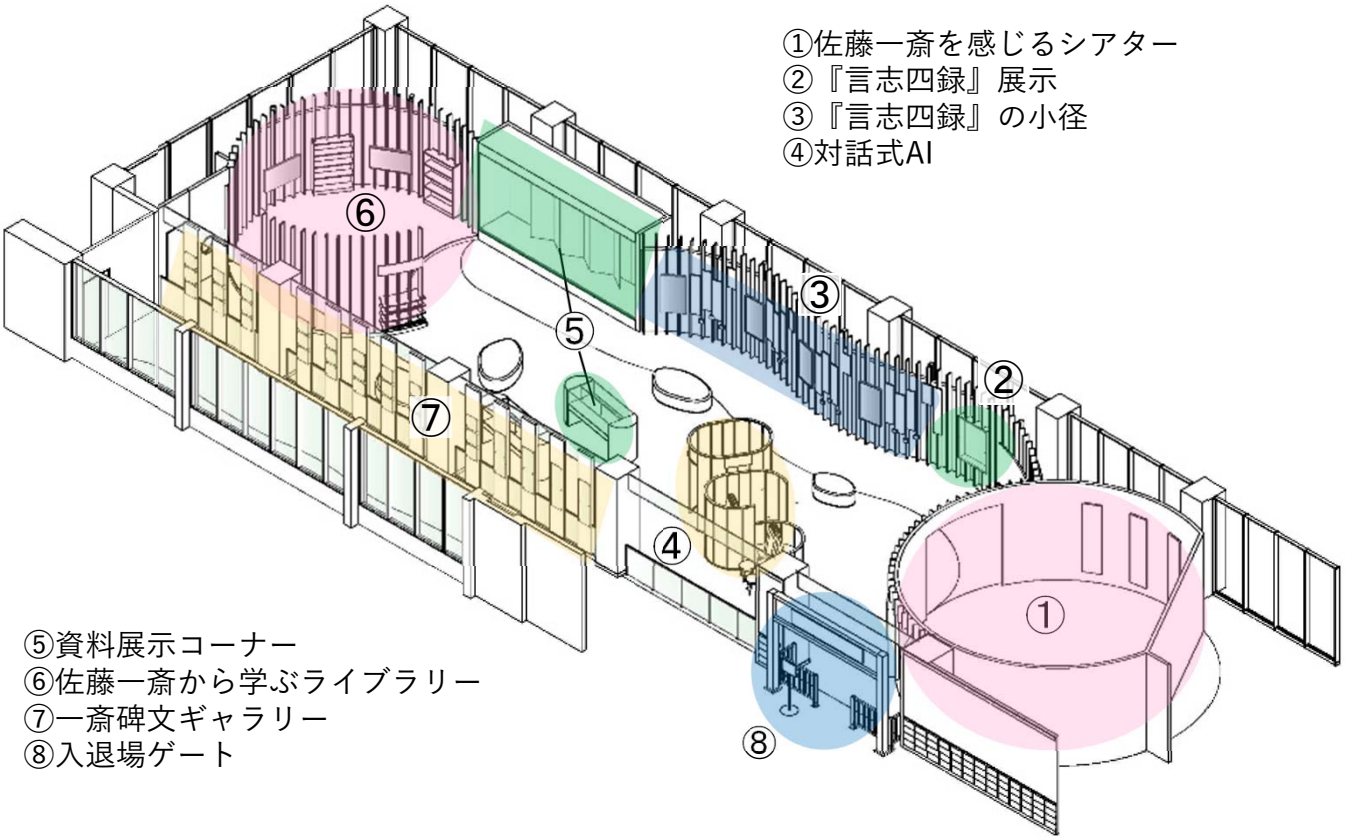
藩校「知新館」を創設し、いち早く教育に取り組み、人材育成に力を入れた岩村藩。学問を大切にするその気風から、佐藤一斎の教えが脈々と受け継がれ、教育やまちづくりに生かされています。（仮称）佐藤一斎學びのひろばを整備する岩村町は、佐藤一斎の教えが今なお生きるまちなのです。

▲家々に掲げられた彫板

▲岩邑小児童の群読

○城下町の家々には200枚もの「言志四録」の彫板が掲げられている
○城下町に「言志四録」の碑文が15ヶ所あり、碑文めぐりが楽しめる
○佐藤一斎顕彰会が「言志祭」を開催し、業績を伝えている
○NPO法人いわむら一斎塾が講読会や公開講座により教えを普及
○岩邑小学校児童が「言志祭」などで「言志四録」の群読を披露
○岩邑中学校生徒が商品を開発し、嚶鳴フォーラムin恵那で販売

主な展示構成



①佐藤一斎を感じるシアター

佐藤一斎の生き方を体感する最初のガイダンスとして、来館者を迎え入れるシアター。佐藤一斎の言葉が次々と降り注ぎ、臨場感あふれる演出で、来館者を魅了します。

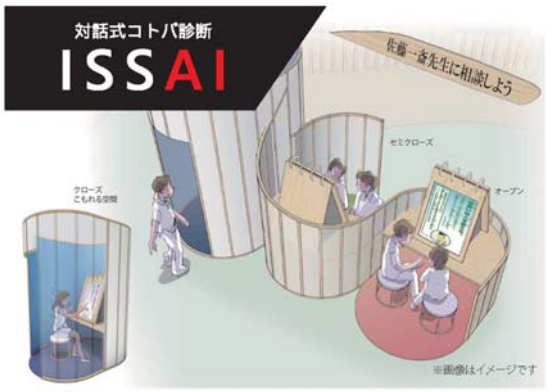
②『言志四録』展示

佐藤一斎の著書『言志四録』の和綴じ本を展示。佐藤一斎との出逢いを身近に感じていただきます。

③『言志四録』の小径

心に沿ったテーマにより、『言志四録』の言葉を紹介。言葉の小径を散策すると、あなたの心にぴったりの言葉に、きっと出逢えます。

④対話式AI“佐藤一斎先生に話しかけてみよう”



「こんな時、一斎先生ならどんな言葉を返してくれるだろうか」。

対話式AIにより現代に佐藤一斎がよみがえり、体験者の心の状態に寄り添い、励ましたり、思いや悩みに合った言葉を語りかけたりしてくれます。

⑤資料展示コーナー

壁面の大型展示ケースには、佐藤一斎直筆の屏風や掛け軸を、平面の展示ケースには、儒教の経典『四書五経』を展示。現物から佐藤一斎が活躍した時代を思い浮かべていただきます。

⑥佐藤一斎から学ぶライブラリー

本を読んだり、佐藤一斎かるたに興じたり、映像に浸ったり。親子、若者からお年寄りまで誰もが楽しめる、思い思いの時間を過ごす寛ぎの場です。

⑦一斎碑文ギャラリー

城下町に15ヶ所ある言志四録の碑文を紹介。皆様を碑文巡りにいざないます。

⑧入退場ゲート

学びの場にふさわしく、藩校の門を模したゲートが皆様をお迎えします。

この人物なしに

日本の夜明けは

語れない

佐藤一斎（1772～1859）
江戸時代後期の儒学者

恵那市が誇る郷土の先人　佐藤一斎

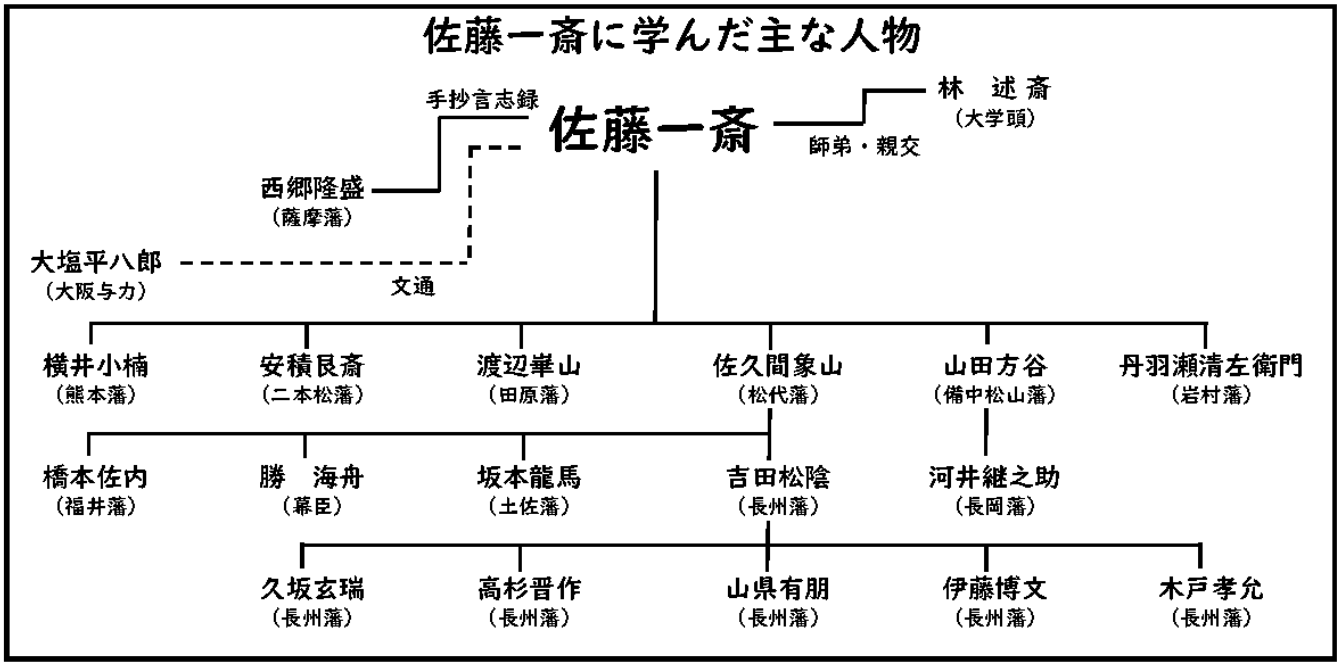
佐藤一斎は1772（安永元）年、岩村藩（現在の恵那市岩村町）の家老佐藤信由の二男として、江戸浜町の下屋敷（現東京都中央区日本橋浜町）で生まれました。34歳で朱子学の宗家林家の塾長となり、多くの門下生の指導に当たります。藩政に尽力したほか、42歳から83歳にかけて『言志四録』1133箇条を残し、百余冊の書籍を著しました。1841（天保12）年、70歳で幕府の昌平坂学問所の儒官（総長）を命じられ、1854（安政元）年には、日米和親条約締結に際し、外交文書作成にも尽力しました。

坂本龍馬、吉田松陰、勝海舟らを支えた教え

佐藤一斎の教えは、幕末から明治維新にかけ新しい日本を作っていった指導者たちに大きな影響を与えたといわれています。

佐藤一斎の私塾や昌平坂学問所で学んだ人は３千人を超え、主な人物には、佐久間象山、山田方谷、渡辺崋山らがいます。また、門下生に連なる人物には、坂本龍馬、吉田松陰、勝海舟、河井継之助らがいます。幕末から明治維新に至る激動期に、日本を大きく変え、近代日本をつくった指導者たちに、佐藤一斎の教えは受け継がれました。

▲佐藤一斎座像（恵那市岩村町）



西郷隆盛が生涯にわたって心の糧とした『言志四録』

佐藤一斎が後半生の40余年にわたって書いた『言志四録』は、指導者のための指南書と呼ばれ、現代まで長く読み継がれています。『言志四録』とは、『言志録』『言志後録〈こうろく〉』『言志晩録〈ばんろく〉』『言志耋録〈てつろく〉』の四書の総称で、1133条の格言が遺されています。内容は学問、思想、人生観など多岐にわたっています。西郷隆盛はこの『言志四録』から感銘を受けた101条を抜き出し、『南洲手抄言志録〈なんしゅうしゅしょうげんしろく〉』として座右に置いていたといわれます。

▲言志四録

春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら粛む。
【言志後録33条】

春のさわやかで温かく優しい風のように人に接し、秋の霜のような凛とした（寒さに気が引き締まる）厳しさで己と向き合い自分を慎みましょう。
自分に厳しく、人には優しい。こんな生き方を心がけたならば、人からしたわれ、尊敬される、本当に立派な人になることができます。

一燈を提げて暗夜を行く。暗夜を憂うること勿れ。
只だ一燈を頼め。　【言志晩録13条】

一張りの提灯をさげていれば、夜の道、暗い闇も怖がることはありません。自分自身の生き方を信じて進む人は、どんな時代や環境においても惑うことなく自信をもって自らの使命に向かって進むことができます。

少にして学べば、則ち壮にして為す有り。
壮にして学べば、則ち老いて衰えず。
老いて学べば、則ち死して朽ちず。
【言志晩録60条】

若くして学んでおけば、大人になった時には、人の役に立つことができます。大人になって学んでおけば、年をとっても生き生きとした気持ちでいられます。年をとっても学び続ければ、ますますしっかりした考え方や生き方ができて、死んでもその名前や業績が語り継がれます。人生に無駄なことは一つもありません。どんなことからでも学ぼうとする気持ちを、いつまでも忘れないことが大切です。

学者は志大にして、工夫は則ち
皆小ならんことを要す。　【言志耋録27条】

こんな人になりたいという大きな夢を持つことは大切なことです。しかし、その夢を実現するためには、どんなに小さな事でもいい加減にしてはいけません。「大」を成すためには、「小」を積み上げていくことが大事であり、小さな一歩を抜きにして「大」は成らないのです。

＜参考資料＞
・『恵那市ふるさと学習読本　vol.7ふるさと人物編④　この人物なしに日本の夜明けは語れない　今に生きる佐藤一斎先生の教え』（恵那市教育委員会）
・『（パンフレット）この男、この人物が居なかったら、日本の夜明けは無かったかも知れない。』（岐阜県恵那市観光交流室）
・NPO法人いわむら一斎塾ウェブサイト

恵那市の紹介

恵那市は名古屋市の中心部からおよそ60㎞、岐阜県南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接した、山紫水明の豊かな自然に恵まれた地域です。
大正13年に木曽川をせき止めて造られた大井ダムと恵那峡、中心市街地を横断する中山道大井宿、南部には800年の歴史を持つ女城主の岩村城下町、レトロな雰囲気漂う日本大正村があります。これらは全長25.1㎞の明知鉄道によって結ばれています。

恵那市は、平成23年4月に「生涯学習都市　三学のまち恵那宣言」を制定し、佐藤一斎の三学の精神を理念とした生涯学習のまちづくりに取り組んでいます。
平成27年6月には、市民が健やかで幸せにとの願いを込め「健幸都市えな」を宣言。健康寿命の延伸を目指しています。
さらに、令和4年5月には、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた取組を先導的に進めていく自治体である「SDGs未来都市」に内閣府から選定されました。

岩村城跡

岩村城は、大和の高取城(奈良県)備中の松山城(岡山県)と並ぶ日本三大山城の一つに数えられる名城。江戸諸藩の府城の中で最も高い所(標高717m)に築かれ、高低差180mの地形を巧みに利用した要害堅固な山城です。霧の湧き易い気象までも城造りに活かされており、別名「霧ヶ城」ともよばれています。

岩村城下町

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている江戸時代の商家の町並み。全長約1.3㎞の本通り沿いには商家や旧家、なまこ壁などが今も佇んでいます。

農村景観日本一地区

四季を通して変わりゆく美しい田園風景が広がる富田地区。「第7回美しい日本のむら景観コンテスト」の集落部門で農林水産大臣賞（最高賞）を受賞しました。

「NEXT GIFU HERITAGE～岐阜未来遺産～」第1号に認定

令和５年６月、「恵那岩村の山城・城下町と農村景観めぐり」が、世界から選ばれる旅先となり得る地域・観光プログラムとして岐阜県から認定を受けました。
今後、国内外への県によるプロモーション等が重点的に行われることになります。

SDGs 未来都市 恵那市

恵那市役所
教育委員会事務局社会教育課
〒509-7292　岐阜県恵那市長島町一丁目１番地１
TEL0573-26-6853　FAX0573-26-2189
E-mail　shakaikyouiku@city.ena.lg.jp
https://www.city.ena.lg.jp/

2025.1　恵那市教育委員会事務局社会教育課